

韓国語の受動形式について

接辞形/jida¹形/接辞+jida 形を中心に

麗澤大学大学院言語教育研究科

日本語教育学専攻博士後期課程

丁時春

1. はじめに

言語学大辞典(1996)によると、‘態は印欧語の動詞の文法範疇の一つであり、英語などでは、能動態(active voice)と受動態(passive voice、被動態ともいう)の区別として表されている。これは、動詞の表す動作と、その動作を起こす者(動作主 agent)、および、その動作を受ける者(受動者 patient)との関わり合いを示すもので、その動作を起こす者が、主語となる場合は、その動詞は能動態の形をとり、その動作を受ける者が主語となる場合は、その動詞は受動態の形をとる。たとえば、英語で、**Jack hit paul** 「ジャックはポールをなぐった」の **hit** は能動態(active form)、**Paul was hit by Jack** 「ポールはジャックになぐられた」の **was hit** は受動態(passive form)である。この2つの表現は、同じ事態、すなわち、ジャックがポールをなぐったことを述べているが、主語の選択が違っており、受動態では、能動態の目的語が主語に転換している。そして、受動態が起こるのは、印欧語のような主語を必ず明示する両肢言語においてはじめて可能である。大体、受動態の表現は、その動詞が目的語を要求する他動詞に限られるのであるが、能動態の表現で目的語となるものに焦点を合わせて主語と見立てることによって、動詞の方を受動形に変えなければならない。’と態を定義している。韓国語においても態に似たような言語現象があるが、すべての場合において以上のような条件をみたしているわけではないので、これをどうみるかについては議論が分かれるところで 本稿では、先行研究が韓国語における受身として論じてきたこれらの諸現象を「受身」と呼ぶこととし、論を進めて行く。

韓国語の受身のつくり方は大きく3つあるが、どれについても生産的な受身のつくり方だとはいいがたい。その中でも典型的な受身形式だといわれている接辞を用いた方法においても接辞 **i/hi/li/gi** と結合できる動詞が150余り²しかない。この受身接辞と結合できない動詞においては受身補助動詞 **jida**、「被る」などの意味をもつ語彙をもちいた方法をと

¹韓国語をローマ字表記は2000年に改正された国語(韓国語)のローマ字表記法に従う。用例文にハンゲルを表記すると共にローマ字表記を行う。

²許明子(2004) pp74-75 参照。

る。また、日本語や英語なら当然受身文で表すであろう事態を表現する場合に、これらのどの方法によっても受身文が成立せず能動文で表す場合もある。

このように韓国語の受身形式においては多様な形態が見られるが、本発表では、このような韓国語の受身の特徴を現代韓国語のコーパスを用いた用例分析によって探ってみたい。コーパス用例としては文体の違いを見るべくドラマ脚本と新聞社説を用いる。受身接辞形、jida 形、受身接辞+jida 形の 3 つについてそれぞれの形式が文体の違った現代韓国語のデータにどのようにあられ、どのような特徴をもっているかを探りたい。

2. 韓国語における受身の形態

上に述べたように、従来受身をあらわすとされてきた形式には、i) 受身接辞 ‘이/i /、히/hi /、리/li /、기/gi /’ を用いる方法、ii) 固有語動詞に受身の補助動詞 ‘-jida(지다)’ を用いる方法、iii) 漢語名詞、固有語名詞に ‘-doeda(되다)’、‘danghada (당하다)’、‘badda(받다)’ などを用いる方法の 3 つがある。この 3 つすべてを受身の意味をあらわす形式として認める(受身に関する概念を広義的に捉える)立場としては 최현배(Choihyenbae,1937)の『ウリマル本』がある。それから i) を典型的な受身を作る形式とし ii)、iii) は受身性表現³とする 우인혜(Uinhye,1997)がある。最後に、日本語なら当然受身文として表現される事態をあらわすとき、以上のどれも用いられず、(1)’ のように能動文で表すものもある。최현배(Choihyenbae,1937)は以下の 맞다(majda、殴られる)について客観的事実としては受身であっても文法的に能動であり、上での 3 つの受身形式とは異なるものであると指摘している。

(1) a. 太郎が次郎を殴った。

太郎-NOM 次郎-ACC 殴-PST

b. 타로가 지로를 때렸다.

talo-ga jilo-reul ttaeli-eoss-da.

太郎-NOM 次郎-NOM 殴-PST-DEC

太郎が次郎を殴った。

(1)’ a. 次郎が太郎に殴られた。

次郎-NOM 太郎-BY 殴-PASS-PST

b. 지로가 타로한테 맞았다.

jilo-ga talo-hante maj-ass-da.

次郎-NOM 太郎-BY 殴-PST-DEC

³우인혜 Uinhye(1997)では、피동성표현(被動性表現)と表記しているが、本節では受身性表現に変えて表記する。

次郎が太郎に殴られた。

(2) a. 次郎が太郎を騙した。

次郎-NOM 太郎-ACC 騙-PST.

b. 지로가 타로를 속였다.

jilo-ga talo-leul so-i-eoss-da.

次郎-NOM 太郎-ACC 騙-PST-DEC.

次郎が太郎を騙した。

(2)' a. 太郎が次郎に騙された。

太郎-NOM 次郎-BY 騙-PASS-PST

b. 타로가 지로한테 속았다.

talo-ga jilo-hante sog-ass-da.

太郎-NOM 次郎-BY 騙-PST-DEC

太郎が次郎に騙された。

(1) の a、b は日本語と韓国語の能動文である。日本では‘殴る’という他動詞が(1)' a のように受身文になれる。しかし、韓国語の‘殴る’という動詞は‘때리다 (ddaelida)’であるが受身の‘殴られる’にするには‘殴られる’という意味をもった別の動詞‘맞다 (majda)’をもちいて(1)' の b のようにあらわす。このように受身接辞‘이/i/、히/hi/、리/li/、기/gi/’をもちいる受身になれない他動詞が少なくない。それから順を追ってみていくが補助動詞‘지다/jida/’をもちいる方法も適用できない動詞もあり、韓国語の受身はその形式が多様であることがわかる。(2)' の b は‘騙される’という意味の動詞속다(sogda、騙される)で意味的な受身文が形態上は能動と同じ形態をとっており、このような動詞に使役接辞をつけて속[이]다⁴ (sog(騙)-i (使役接辞) -da、騙す)をつくる。

本稿では、接辞受身形と補助動詞‘지다/jida/’のみを取り上げて分析の対象として考えていきたい。上の(1)'、(2)'のような能動文と受身文に各々異なった動詞をもちいてあらわすような例と漢語や固有語の名詞に結合して受身をあらわす動詞は除く。

3. 接辞‘이/i/、히/hi/、리/li/、기/gi/’による受身

⁴韓国語の使役接辞‘이/i/、히/hi/、리/li/、기/gi/、우/u/、구/gu/、추/chu/’をもちいてつくる。一方、韓国の辞書では속다 (sog-da、騙される)の사동사 (使動詞)として載っている。標準国語大辞典 WEB 版 http://www.korean.go.kr/06_new/dic/search_input.jsp

우인혜(Uinhye,1997)によると典型的な韓国語の受身文は他動詞の語幹に ‘이/i/、히/hi/、리/li/、기/gi/’ が結合して形成される。例えば, 안다(anda、抱く)－안기다(angida、抱かれる)、먹다(meogda、食べる)－먹히다(meoghida、食べられる)のようなものである。

우인혜(Uinhye,1997)は、典型的な受身文の要件としてまず、他動詞に受身接辞が介入された形態をとる形態論的な要件、それから能動対応文をもつ構文論的な要件、最後に意味的な面でも本来の能動文と基本的意味(cognitive meaning)⁵が一致する意味論的な要件、この三つの要件をそろえている接辞受身文のみを典型的な受身文⁶であるとしている。

この受身の接辞については、受身をつくる方法において能動文から受身文になるとき規則的になんらかの操作によって受身になれる変形説(屈折)とはじめからレキシコンに受身の形式の動詞が入っている派生説がある。この問題に対して우인혜(Uinhye,1997)は変形説の立場をとっている。우인혜(Uinhye,1997)は ‘もちろん派生説も一理はあるが、多くの場合受身文とそれに対応する能動文の意味的な面から見られる同意性を基にした変形規則の導入は文法記述を簡潔にする良い点があるためである。もちろんこのような変形規則が適用される動詞の数が限定されているがそれらが成す文章の数も多数でその頻度も高い’ (日本語訳は筆者によるものである。) としている。これら受身文を能動文と関連させず、別に生成するという事は文法規則の簡潔性から見ると良くないということであろう。

우인혜(Uinhye,1997)が上で述べたように受身接辞による方法が屈折接辞であるとしたら動詞一般と規則的に、生産的に結合するはずである。しかし、実際に 150 の動詞にしか結合できないという制約があるということは우인혜(Uinhye,1997)がいう屈折接辞より派生接辞の特性をあらわしているといえる。ただ、生産性がないとしても受身接辞 ‘이/i/、히/hi/、리/li/、기/gi/’ が jida や doeda 類のように本動詞としての語彙の意味をもたず、受身の標識としてのみはたらくということがこれらの接辞を用いた受身をもっとも

⁵김흥수 (Gimheungsu,1998)は知的意味について量化詞、否定と関連して能動文と受動文の意味が異なり得るので受身変形の問題点が提起されると述べている。

例) a. 모든 아이가 사과를 한 개 먹었다.

modeun ai-ga sagwa-leul han gae meog-eoss-da.

全ての 子供-NOM りんご-ACC 一個 食-PST-DEC

全ての子供がりんごを一つ食べた。

b. 사과 한개가 모든 아이에게 먹혔다.

sagwa hangae-ga modeun ai-ege meog-hi-eoss-da.

りんご 一つ-NOM 全ての 子供-BY 食-PASS-PST-DEC

りんご一つが全ての子供に食べられた。

⁶接辞受身は実際その使い方において “非典型的な受身文” としてあらわれることが多いと우인혜(Uinhye,1997)はいっている。非典型的な受身文とは우인혜(Uinhye,1997)のいう受身文の三つの要件を備えていないものを指す。

典型的な受身とする根拠であろう。

3. 1 接辞による受身の制約 — ①音声形式的な面から

前述したように制限された動詞のみが接辞を取ることができる。우인혜(Uinhye,1997)は現代韓国語における接辞をとる動詞 150 語余りを挙げているがこれは ‘이/i/接辞が付く規則においては動詞の語根の終声と接辞の接続に関係すると述べている。

接辞の接続規則

- 이/i/ 母音、ㄱ(gg)、ㅎ(h)、ㅍ(p)、ㄹ(l)
- 히/hi/ ㄱ(g)、ㅂ(b)、ㄷ(d)、ㅈ(j)、ㄴ(lg)、ㅌ(lb)
- 리/li/ ㄹ(l)、ㄷ(d)、ㅎ(h)
- 기/gi/ ㄴ(n)、ㄹ(m)、ㅅ(s)、ㅆ(ch)、ㅎ(h)、ㅌ(lm)

この内もっとも多く動詞に結合するのは ‘리/li/’ 接辞で、許明子(Heomyeongja,2004)の調査でも日常生活においても ‘리/li/’ 接辞がもっとも頻繁に用いられると述べている。이익섭(Iigseob,1999)は、受身接辞を取ることができない他動詞には次のようなものがあるといっている。まず、動詞 ‘하다 (hada、する)’ をはじめとして接尾辞 ‘-하다 (-hada、-する)’ が付いた動詞は接辞を取ることができない。授与動詞 (ditransitive verb) と、受惠動詞 (benefactive verb) も受身接辞を取ることがない。話者の心理的経験を表す経験動詞 (experiential verb)、対称動詞 (symmetric verb) も受身接辞を取ることができない。この他に ‘던지다 (deonjida、投げる)’、‘지키다 (jikida、守る)’、‘때리다 (ddaeria、なぐる)’、‘만지다 (manjida、さわる)’ などのように語幹が ‘이 (i) で終わる多くの動詞も受身接辞を取ることができないと述べている⁷。以上のように受身接辞を取ることができないものが多数ある。また、권재일(Gwonjaeil,1992)も受身接辞について四つもある接辞の分布環境は音韻的な条件だけでは説明できないとし、その環境分布においては未だに明示的に記述できないと述べている。筆者自身も권재일(Gwonjaeil,1992)の意見に同様に思う。音韻的な条件だけで受身接辞が結合されるとする場合、ㄹ(l)終声の場合 ‘이/i/’ 接辞も ‘리/li/’ もとることができるが、結合での違いが明示的にされていない。

3. 2 接辞による受身の制約 — ②意味的な面から

이익섭(Iigseob,1999)は韓国語の能動文と受動文は常に互いに対応できる関係ではないとした。受身接辞をとることができない動詞においてはいうまでもないことで、反対に受身接辞をとることができる動詞においてもそれに対応する能動文を想定することができない場合があると述べている。

⁷全くないとは言い切れない。치다 (chi-da、引く (車などで)) に対して치이다 (chi-i-da、引かれる) の受身接辞이/i/を用いることができるからである。

(3) a. 수미가 감기에 걸렸다.

sumi-ga gamgi-e geol-li-eoss-da.

スミ(人名)-NOM 風邪-BY 罹-PASS-PST-DEC

スミが風邪にかけられた (かかった) (直訳)

スミが風邪を引いた。

b. *감기가 수미를 걸었다.

*gamgi-ga sumi-leul geol-eoss-da.

*風邪-NOM スミ(人名)-ACC 罹-PST-DEC

*風邪がスミをかけた。

c. *(X가) {수미를, 수미에게} 감기를 걸었다.

* (X-ga) {sumi - leul, sumi-ege} gamgi-leul geol-eoss-da.

* (X-NOM) {스미(人名)-ACC} 風邪-ACC かけ-PST-DEC

* (X가) {스미를, 스미에} 風邪를かけた。

(3) は受身文に対応する能動文を考えにくい例文である。それに ‘걸렸다 (geollieossda、かけられた)’ は形態の上では明らかに他動詞 ‘걸다(geolda、かける)’ の受身接辞 ‘리/li/’ を取っているが、意味の上からは他動詞の ‘걸다(geolda、かける)’ とかなり遠ざかっていて共時的に ‘걸리다 (geol-li-da、かけられる)’ が ‘걸다 (geol-da、かける)’ の受身接辞を用いた派生であるかですら判断しにくくなっていると 이익섭(Igseob,1999)はいい

っている。この ‘걸리다 (geol-li-da、かけられる)’ について 우인혜(Uinhye,1997)は本来の ‘걸다(geolda、かける)’ との関連はないようだとし、この場合の ‘걸리다 (geol-li-da、かけられる)’ は自動詞として処理する方がいいといっている。このように 動詞+受身接辞とまったく同じ形態をもつ動詞が多数あるため混乱がおきている。

さらにこの問題について 우인혜(Uinhye,1997)は韓国で発行されている辞書を対象に調べている。우인혜(Uinhye,1997)によると各辞書ごとに異なった受身の概念で受身と自動の区分処理においても一定の原則や基準がなく互いに食い違った解釈が多いと指摘している。受身接辞 ‘이/i/’ が介入され受身の意味を表す接辞受身形⁸が辞書によって受身接辞形として扱われず接辞受身形すべてが自動詞の派生接尾辞として処理されたりもする。つまり、形式の上での共通性のため自動詞として処理されるという問題である。〈우리말큰사전

⁸受身接辞を取った形で辞書に載った動詞は「被動詞」と呼ばれる。

ーウリマル大辞典)を除く⁹四つの辞書が共通に受身動詞(被動動詞—他動詞が受身接辞を取った形式)として扱っている数は‘ㅇ/i/’が26語、‘ㅎ/hi/’は22語、‘ㄹ/li/’では38語、‘ㄱ/gi/’は9語である。

またこのような受身接辞形(韓国語文法では被動動詞又は被動詞と呼ぶ)として辞書に載っている動詞について許明子(Heomyeongja,2004)は韓国語の受身文と能動文が必ずしも対応関係が成り立つとはいえない例があるとし、その理由として他動詞に受身接辞‘ㅇ/i/’が接続すると語彙化する傾向が強いためだとした。例えば、‘ㅇ/i/’受身文の場合、他動詞に‘ㅇ/i/’の接辞が接続した形式は「被動詞」と呼ばれ、多くの被動詞が一つの語彙として扱われ、韓国語の国語辞書にも語彙項目として掲載されている。しかし、「被動詞」と「被動形(受身形)」の間には規則的な使い分けの明確な区別がなく、両方とも広い意味での受身形式とされているため、韓国語の受身文の中で特に‘ㅇ/i/’類接辞が接続された形態は能動文との対応関係も成り立ちにくい例が多いのであるといっている。

3. 3 接辞受身が典型的な受身とされる理由

典型的だといわれている接辞受身においてもまず、音声形式的面からその分布の狭さ、そして自動詞との混乱などの問題を抱えていた。この接辞と結合する動詞の種類は150あまりに限られているうえに使用頻度が高い日常言語においてもよく使われる他動詞でありながら受身接辞を取ることができない動詞が多い¹⁰。

以上のように受身接辞は一部の動詞にしか結合できないなどの問題を抱えているが、韓国語において典型的な受身を作る方法と認められている理由は形態的に他動詞にだけ結合するという点、統語的に他動詞を能動から受動に変え構文論的に変化をもたらすという点、意味的に接辞が受身文を形成する機能に局限されている点¹¹である。

4. 補助動詞‘지다/jida/’による受身

受身接辞が結合する他動詞が150語余りであることは前述したが、そのほかの固有語の他動詞においては受身補助動詞の‘지다/jida/’¹²をもちいる。特にこの‘지다/jida/’

⁹ ‘우리말큰사전—우리말大辞典)を除く理由は被動詞を区分せず全て自動詞として処理しているためである。

¹⁰ 例えば, 만들다 (mandeulda, つくる), 보내다 (bonaeda, 送る), 버리다 (beolida, 捨てる) 等のような動詞は日常よく使われる動詞であるが, 受身接辞をもちいて受身をつくることができず, 受身補助動詞である jida をもちいて受身を作る動詞である。

¹¹ 同じ形態で受身文とも自動詞とも取れる例があるのでまだ混乱は残る。

¹² ‘지다/jida/’は形容詞にも結合でき、一部の自動詞にも結合できる。一方結合の際は動詞の語幹の母音によって ‘아/a/、어/eo/、해/hae/’の連用語尾がくる。それから ‘지다/jida/’は形容詞と一部の自動詞に結合することもできる。このときは受身の意味よりは状態変化という意味になる。‘지다/jida/’の組み合わせのパターンは以下のように3つである。1. 接辞がとれる他動詞でも接辞に代わって jida が結合 2. 他動詞に jida が単独で結合 3. 他動詞と接辞が結合したところにさらに jida が結合

は受身接辞受身文が不可能な場合（すべてではない）にその穴をうめる役割を果たすということが興味を引く。‘지다/jida/’文は典型的接辞受身文に準じる統語・意味的条件を整った場合、特に接辞受身文の分布上の空白（gap）を補ったり、受身接辞を取ることができる他動詞にも接辞の代わりにもちいられたりすることがある。

(4) 이 왕관은 금으로 만들어졌다.

i wanggwan-eun geum-eulo mandeul-eo-ji-eoss-da.

この 冠-TOP 金-INS 作-PASS(jida)-PST-DEC

この 王冠は 金で 作られた。

(4) ’ *이 왕관은 금으로 만들리었다.

* i wanggwan-eun geum-eulo mandeul-li-eoss-da.

* この 冠-TOP 金-INS 作-PASS(i)-PST-DEC

*この王冠は金で作られた。

(5) 자기에게 주어진 일을 열심히 한다.

jagi-ege ju-eo-ji-n il-eul yeolsimhi ha-n-da.

自分に 与-PASS(jida)-PST 仕事-ACC 一生懸命に する-PRS-DEC

自分に与えられた仕事を一所懸命にする。

(5) ’ *자기에게 주인 일을 열심히 한다.

*jagi-ege ju-ji-n il-eul yeolsimhi ha-n-da.

*自分に 与-PASS(i)-PST 仕事-ACC 一生懸命に する-PRS-DEC

*自分に与えられた仕事を一生懸命にする。

(4) の만들다 (mandeulda、作る) は受身接辞が結合できない他動詞であるが、‘지다/jida/’との結合は自由である。(4) でのように語尾 ‘어/eo/’ による ‘-어 지다/-eo jida/’ が内包され受身文が実現される。(5) の주다 (juda、与える) も接辞受身を取ることができないが ‘지다/jida/’ との結合は問題ない。(4) と (5) のような用法は受身接辞が不可能な他動詞に ‘지다/jida/’ をもちいて受身文にする方法である。허명자(Heomyeongja,2004)でも述べているが、‘이/i/’ 接辞受身文より他動詞との結合において自由で、接続する動詞に関する制限も少ない。(4)、(5) は ‘이/i/’ 受身文が成立できない他動詞においての例であるが、受身接辞を取ることができる他動詞にも接辞の代わりにこの ‘지다/jida/’ が結合することが少なくない。‘지다/jida/’ が連結語尾

‘아/a／、어/eo／해/hae／’ をとり他動詞に結合し受身文をつくり、能動文と対応する。

(6) 구두끈이 풀어졌다

guduggeun-i puleo-ji-eossda.

靴の紐-NOM 解-PASS(jida)-PST-DEC

靴の紐が解かれた。

(6) ’ 구두끈이 풀렸다.

guduggeun-I pul-li-eoss-da.

靴の紐-NOM 解-PASS(i)-PST-DEC

靴の紐が解かれた。

(6) の풀다 (jaleuda、解く) は (6) ’ のように受身接辞形 ‘리/li／’ が取れるにもかかわらず、‘-어지다 (-a jida)’ を用いて受身文をつくった例である。

4. 1 補助動詞 ‘지다/jida／’ による受身の制約 -①結合形式面から

‘지다/jida／’ は他動詞だけではなく形容詞、自動詞とも結合することができる。서정수(Seojeongsu,1996)は以下の3つの例文を比較しそれぞれの違いについて以下のように述べている。

(7) 날씨가 좋아졌다.

nalssi-ga jog-a-ji-eoss.da .

天気-NOM 良-jida-DEC.

天気が良くなった。

(8) 구두창이 다 닳아졌다.

guduchana-i da dalha-ji-eoss-da.

靴の底-NOM 全部 磨り減-PASS(jida)-PST-DEC.

靴の底が全部磨り減られた(磨り減った)。

(9) 억울한 일은 잘 안 잊어진다.

eogulhan il-eun jal an ijeo-ji-n-da.

悔しい こと-TOP よく 否定 忘-PASS(jida)-PRS-DEC.

悔しいことはよく忘れられない。

(7) は形容詞に ‘지다/jida／’ が結合した例である。‘지다/jida／’ は形容詞において

はほぼ制約がなく結合することができる。形容詞と‘지다/jida/’の結合が受身をあらわすということは無理である。(8)は自動詞に‘지다/jida/’が結合した用例であるが、‘지다/jida/’が結合していない自動詞のままの時と意味の違いは感じられず、‘지다/jida/’と自動詞との結合は形容詞ほどではないが受身があらわれるとはいいいにくい。(9)は他動詞で受身文になっている。このように‘지다/jida/’が他動詞以外の用言範疇に結合することは他動詞にだけ結合して受身をあらわす受身接辞の方が受身をあらわす典型的な標識であるといえる点であることは否定できないと筆者自身も思う。

4. 2 補助動詞 ‘지다/jida/’ による受身の制約 –②意味面から

許明子 (Heomyeongja,2004)は接辞受身文と、‘지다/jida/’ 受身文が同時に成立する場合の接辞受身の場合と‘지다/jida/’ 受身の意味の違いについて次のように書いている。

(10) 여기는 고기가 잘 잡힌다.

yeogi-neun gogi-ga jal jab-hi-nda.

ここ-TOP 魚-NOM よく 捕-PASS(i)-PRS-DEC

ここは魚がよく捕られる。(直訳)

ここは魚がよく釣れる。(意訳)

(10)’ 여기는 고기가 잘 잡아진다.

yeogi-neun gogi-ga ja l jab-a-ji-nda.

ここ-TOP 魚-NOM よく 捕-PASS(jida)-PRS-DEC

ここは魚がよく捕られる。(直訳)

ここは魚がよく釣れる。(意訳)

(11) 하수도공사로 인해 길이 막히었다.

hasudogongsa-lo inhae gil-i mag-hi-eoss-da.

下水道工事-BY 道-NOM 塞-PASS(i)-PST-DEC

下水道工事によって道が塞がれた。

(11)’ 하수도공사로 인해 길이 막아졌다.

hasudogongsa-lo inhae gil-i mag-a-ji-eoss-da.

下水道工事-BY 道-NOM 塞-PASS(jida)-PST-DEC

下水道工事によって道が塞がれた。

上の例文(10)と(10)’、(11)と(11)’は同じ動詞が‘이/i/’受身と‘지다/jida/’受身で表されている。(10)は話者の意図とは無関係である自発の意味を含む受動性が表されているが、(10)’は受動性ととも可能性の意味が含まれている。また、

(11) は外部からの意図的な行為による受動性が強く感じられるが、(11)' は(11)の受動性ととも状態変化に結果が持続していることも含まれている。このように '이/i /' 受身と '지다/jida /' 受身が同時に成立する場合は、'이/i /' 受身によって外部の意図的な行為の影響を受けたという一次的な受身の表現が表され、'지다/jida /' 受身によって可能性などの意味を含んだ二次的な受身の意味が表されるといっている。これに関しては今後さらに多くの例文に当たる必要がある。

以上韓国語の受身を作る方法として派生的に受身接辞 '이/i /、히/hi /、리/li /、기/gi /' と統語的に補助動詞 '지다/jida /' の結合形態とその制約についてみた。

英語や日本語の他動詞のほとんどが受身になれるのに対し、韓国語は受身になれないものが多い。また受身をつくる補助動詞の '지다/jida /' は他動詞の他に自動詞、形容詞にも結合でき、そのときは意味様相も少し異なるという点もある。

5. 接辞+jida 形について

受身接辞を用いて受身形になっているのにもかかわらず、さらに補助動詞が結合する形についてこういった現象は日常言語生活においては広くつかわれているが文法的には受け入れ難いという指摘がある。

송병학(Songbyeonghag,1979)では、먹히어지다 (meog-hi-eo-jida、食べられる)、심기어지다(sim-gi-eo-jida)などの接辞+jida 形を二重受身として扱う見解について他動詞に受身接辞が使われたところに再び補助動詞が加わった時の補助動詞 '지다/jida /' は受身をあらわすのではなく生成 (become) の意味の派生要素であって、受身の補助動詞ではないとした。

우인혜(Uinhye,1997)は、묻히어졌다 (mud-hi-eo-jieosda、埋められた) の用例で 묻히어졌다 (mud-hi-eo-jieosda、埋められた) は受身の起動相とし、二重受身ではないとした。補助動詞 jida が形容詞、自動詞、他動詞、それから他動詞に受身接辞の後に結合するときの全てにおいて起動相をあらわすと主張した。しかし、意味的に形容詞に結合した jida と他動詞に結合した jida が同じ意味をあらわすということは無理がある。勿論すべての jida の用法に共通する意味機能があると考えた方が理論の上ではすっきりとしている。それから形態的、構文論的に接辞+jida 形を受身であると述べるのは受け入れ難いかもしれない。우인혜 (Uinhye,1997)のいう起動相とは動作や状態の始まりだけではなくその始まりによってあらわされる変化様相に焦点をおいたものであるとし、接辞+jida 形も起動相であると述べているが、筆者は接辞+jida 形において受身、それから変化様相をあらわすという二つを認めたい。なぜならば接辞+jida 形も接辞受身形同様統語的に目的格を主格に変えることができるからである。それから次の例は우인혜(Uinhye,1997)で起動相であるとした以下の例であるが、jida が結合している a、c とも起動相であるとするならば対象を目的格に変えられるはずだがそれが無理であり、動作主が主格であられることもできない。以下の用例は우인혜(Uinhye,1997)pp199、元の例文番号 (141) で日本語訳は筆者によるも

のである。

[例]

a. 그 김치 항아리는 땅 깊숙히 묻어졌다. (jidaのみ)

gu gimchi hangali-neun ddang gipsugghi mud-eo^[ji]-eossda.

その キムチ 壺・TOP 土 深く 埋-jida-PST-DEC.

そのキムチ壺は土深く埋められた。

b. 그 돈은 땅 깊숙히 묻혀있다. (接辞のみ)

gu don-eun ddang gipsugghi mud-^[hi]-eoss-da.

その お金・TOP 土 深く 埋-PASS-PST-DEC.

そのお金は土深く埋められた。

c. 그 금덩어리는 땅 깊숙히 묻혀어졌다. (接辞+jida)

gu geumdeongeoli-neun ddang gipsugghi mud-^[hi]-eo^[ji]-eoss-da.

その 金の塊・TOP 土深く埋-PASS-接辞+jida-PST-DEC.

その金の塊は土深く埋められた。

一方、補助動詞‘지다/jida/’は受身の機能をもつので受身接辞と一緒に使われるとき、よりはっきりした受身をあらわすという意見もある。

たとえば、성광수(Seonggwangsu,1976)では、状態動詞または自動詞に結合する補助動詞‘지다/jida/’は起動的受身¹³として考え、他動詞に結合する‘지다/jida/’の場合は本格的な受身としてみた。後者の場合‘지다/jida/’が受身接辞の後に結合すると二重受身をあらわすといった。たとえば、잡히어진다(jab-^[hi]-eo-^[ji]nda,捕まえられる)のような例がそれである。

고영근(Goyeonggeun,1974)は、受身接辞‘이/i/、히/hi/、리/li/、기/gi/’のうちには補助動詞‘지다/jida/’と結合して二重受身を作る場合があるとした。たとえば、먹히다(meog-^[hi]-da,食べられる)－먹혀지다(meog-^[hi]-eo-^[ji]da,食べられる)、쓰이다(sseu-^[hi]-da,使われる)－쓰여지다(sseu-^[hi]-eo-^[ji]da,使われる)で語幹に受身接辞히/hi/と이/i/が用いられたときに生産的に補助動詞‘지다/jida/’がつくことができる現象であるとした。しかし、実際に筆者が調べた結果によると受身接辞리/li/や기/gi/にも補助動詞がつく例が見られた。例えば、들리다(deul-^[li]-da,持たれる)－들려지다(deul-^[li]-eo-^[ji]da,もたれる)と감기다(gam-^[gi]-da,巻かれる)－감겨지다(gam-^[gi]-eo-^[ji]da,巻かれる)で日常的に使われている。

以下は잊다(ij-da,忘れる)という他動詞の接辞受身形의 잊히다(ij-^[hi]-da,忘れられる)と接辞+jida形の잊혀지다(ij-^[hi]-eo-^[ji]da,忘れられる)であるが接辞受身形よりも接辞+jida形のほうが自然な感じがする例である。

¹³성광수(Seonggwangsu,1976)は状態動詞または自動詞に結合する補助動詞‘지다/jida/’を‘結果的な状態や起動的な過程による被動だ’とした。

(12) a. 이름을 잊다. (能動文)

ileum-eul ij-da.

名前-ACC 忘-DEC.

名前を忘れる。

b. 이름이 잊히다. (接辞を用いた受身文)

ileum-i ij-hi-da.

名前-NOM 忘-PASS-DEC.

名前が忘れられる。

c. 이름이 잊혀지다. (接辞+jida を用いた受身文)

ileum-i ij-hi-eo-ji-da.

名前-NOM 忘-PASS(接辞)-PASS(jida)-DEC.

名前が忘れられる。

(12) は 잊다(jida 忘れる) の接辞受身形の 잊히다 ij-hi-da (忘れられる) があるのに接辞にさらに受身補助動詞の ‘지다/jida/’ を結合させ 잊혀지다 (ij-hi-eo-ji-da) (忘れられる) を使う場合の例である。筆者自身も (12) の b を日常的に使い、よく耳にする形態である。2004年6月30日のハンギョレ (hangyeole) 新聞に、韓国国語研究院が1990年代の教科書・教養文学・新聞・雑誌を対象に実施した‘現代国語使用頻度調査(2002)’の結果についての記事があった。‘忘れる’ という意味の他動詞 ‘잊다 (ijda)’ の接辞+jida 形 ‘잊혀지다 (ij-hi-eo-ji-da) は 28 回も使われたが、接辞受身形の ‘잊히다 (ij-hi-da)’ は一度も出現していないという記事である。これは単に対象とした資料が不十分だったとは言いきれないのではないだろうか。

6. ドラマ・新聞の用例分析

今回の用例の対象として実例に基づいて電子コーパスからの用例を用いたがそれぞれ新聞 3.04MB (ディスク上の容量) で、ドラマ 3.03MB (対話 32%、ト書き 68%)¹⁴から各々接辞受身形、jida 形、接辞+jida 形を検索し分析を行った。受身接辞形、jida 形、受身接辞+jida という形式をもつ用例の中から、統語的・意味的基準から筆者が受身の意味をあらわすと判断した用例を抽出して分析の対象とした。

ドラマ脚本と新聞社説に使われた接辞受身形、jida 形、接辞+jida 形の各々の文体差と受

¹⁴この割合は、ドラマ脚本の対話とト書き全てから得た数字ではなくドラマ脚本 5 回分のサンプルを調べて得た数字である。

身主語が有情物なのか無情物なのかをみた。最後に、アスペクトをあらわす ‘아 있다(a issda、ーている)’、‘-고 있다(go issda)’ との共起をみた。

6. 1 ドラマ・新聞用例の文体差

<接辞受身形>

	容量	接辞受身形	出現動詞数
ドラマ脚本	対話 約 1MB	8 例	7 個
	ト書き 約 2MB	63 例	24 個
新聞	社説 3.04MB	152 例	47 個

<jida 形>

	容量	jida 形	出現動詞数
ドラマ脚本	対話 約 1MB	15 例	8 個
	ト書き 約 2MB	67 例	37 個
新聞	社説 3.04MB	135 例	51 個

<接辞+jida 形>

	容量	接辞+jida 形	出現動詞数
ドラマ脚本	対話 約 1MB	1 例	1 個
	ト書き 約 2MB	48 例	21 個
新聞	社説 3.04MB	24 例	7 個

[表 1]

まず、ドラマ脚本のト書きは口語体としても文語体としても取れると考えられるが今回の文体差からみると対話より新聞社説に近い結果になっている。対話の容量が少なかったこともあるが、ここから言えるのは韓国語の受身形式において一番典型的であるといわれている接辞受身形は口語体より文語体によく用いられるといえるだろう。それからここで注目したいのは先行研究では受身形式としては認められず、起動などの意味しかもたないといわれた jida 形だが、今回のデータからだと接辞受身形の結果に似た数字が見られた。新聞社説を除いてはむしろ jida 形が対話では上回り、出現動詞も多い。これは典型的な受身形式だという受身の接辞より jida の方が多くの動詞と結合するという事実をあらわしている。

それから、接辞+jida 形の文体差において接辞受身形と jida 形とは違うところはト書きにあらわれる用例が多いことである。接辞受身形、jida 形に比べ全体的に用例数は少なく、対話はわずか 1 例（この 1 例は独り言（2 1）の例）であり、新聞社説では接辞受身形の約 6 分の 1 程の用例しかあらわれなかった。しかし、接辞+jida 形のドラマ脚本のト書きをみると接辞受身形よりは少ないものの、ドラマの対話や新聞社説において接辞受身形や jida

形が接辞+jida 形よりはるかに多かったのに比べ、接辞+jida 形の用例数に大差はみられなかった。なぜ、ドラマ脚本のト書きに接辞+jida 形がドラマの対話・新聞社説より頻繁にあらわれるのであろうか。以下(13)、(14)は接辞+jida 形の用例であるが、(13)は接辞受身形だけでも受身があらわされ、また jida がさらに加わっても意味の違いが殆ど感じられないような用例である。しかし、(14)の場合は接辞受身形よりも jida がさらに加わった接辞+jida 形がより自然な受身として感じられる。(14)のように、接辞受身形のみより接辞+jida 形の方が自然な例もあれば(13)のように、接辞受身形のみでも接辞+jida 形でも同様に自然な例もあり、ここに見られる用例は一様ではない。

(13) 커피잔 테이블에 놓여진다.

keopijan teibeul-e nog-ji-ji-n-da.

コーヒーカップ テーブルに 置-PASS-接辞+jida-DEC.

コーヒーカップ テーブルに置かれる。

(ド、ト、チレ)

(14) 모든 게 다 짜여진 각본대로였다구,,

modeun ge da jja-ji-ji-n gagbondaeoyeossdagu,,

すべて みな 組-PASS-接辞+jida-PST 脚本通りだったの、

すべてがみな作られた脚本通りだったの、

(ド、対、特④)

(13)と(14)の違いとして(13)のコーヒーカップを置いたということは客観的な事実で、誰がおいたのかは問題にならない。しかし、(14)の例は独り言ではあるが、話し手がいて、誰か仕組んだ人がいてそれについての話し手の気持ちが入っている主観的な文である。ドラマ脚本のト書きに接辞+jida 形が多く出たのは表現内容のみを客観的にあらわすときが多いというト書きの性質に理由があるように思われる。

6. 2 ドラマ・新聞用例の主語について

長谷川(1993)は、韓国語の受身の形態は受身主体の有情・無情物¹⁵と深い係わりがあると述べている。長谷川(1993)は次のように接辞受身形/jida 形/接辞+jida 形¹⁶と有情・無情物とのかかわりをまとめている。

接辞受身形

受身主体の立場から主観的な「被り感」を表現していて動作の対象が無情物の場合、受身接辞形は自動詞として解すべき場合が多く、また無情物主体は問題なく接辞+jida 形を形成することができるのは、無情物にとって「被り感」は問題とならないのである。

jida 形

¹⁵長谷川(1993)では非情物

¹⁶長谷川(1993)ではそれぞれ<이形><지다形><複合形>と呼んでいる。

受身主体の主観に関わりなく受身的事実を客観的に描写する表現で、無情物が受身主体にたつのが本来的な形である。有情物を受身主体とする場合は、その有情物（人）は精神や感情をもった人格というより、資格や立場などに抽象化されたもの、或いは感情や人格を無視し姿や肉体などを無情物として捉えられている。

接辞+jida 形

‘接辞形’で主観的な「被り」として表現された事実を‘jida’によって状態化し客観化したものであると考えられる。従ってこの‘jida’は受身の補助動詞ではなく、状態の補助動詞である。無情物を受身主体とする場合、‘接辞形’受身と‘接辞+jida 形’受身は意味的にあまり大きな差はないが、前者に比べて後者は状態性が強調されている。

以下の表は3つの形式の受身主体の有情・無情物についての結果である。一般に韓国語の受身は無情物より有情物が受身主語になるといわれているが、今回のデータでは3つの形式ともに無情物主語が多くあらわれた。3つの形式ともに有情物が極端に少ない結果になっている。長谷川（1993）は、接辞受身形は主観的な「被り感」を表現していると述べ（上記）、jida 形が受身主体の主観に関わりなく事実の客観的に描写しているとしたが、以下の（15）の用例はト書きの用例で接辞受身形であるが、主語の感情とは関係なくただ被写体としての客観的な事実をあらわしているような用例である。もちろんこのような用例の数は少ないが、少なくともト書きにおいては接辞受身形だとしても全てが受身主体の立場から主観的な「被り感」をあらわしているとはいいいくいだらう。

(15) 수옥(다른 일꾼 품에 안겨 피묻은 채 의식없다)

suog(daleun ilggun pum-e an-gi²-eo pimudeun chae euisigeobsda.

スオク-人名（他の仕事人の胸-に 抱-gi-て 血ついたまま 意識-PRS-DEC.

スオク（他の仕事人の胸に血がついたまま抱かれて意識がない）

（ド、ト、チレ）

接辞受身形			数
ドラマ脚本 (71 例中)	対話	有情物	4
		無情物	4
	ト書き	有情物	8
		無情物	55
新聞 (152 例中)	社説	有情物	14
		無情物	138

[表 2-1]

jida 形			数
ドラマ脚本	対話	有情物	4

(82 例中)	ト書き	無情物	11
		有情物	0
		無情物	67
新聞 (135 例中)	社説	有情物	7
		無情物	128

[表 2-2]

接辞+jida 形			数
ドラマ脚本 (49 例中)	対話	有情物	0
		無情物	1
	ト書き	有情物	4
		無情物	44
新聞 (24 例中)	社説	有情物	0
		無情物	24

[表 2-3]

3つの形式ともに無情物の用例が多い理由として今回対象とした用例の性質によるものがあると思われる。今回のデータの新聞社説で無情物の用例が特に多いのであるが、接辞受身形では全体 152 例中 132 例 (91%)、jida 形においては 135 例中 128 例 (95%) にもなる。今回のデータに限って言えば、韓国語の受身の主語は有情物よりも無情物を中心にあらわれると言える。これには今後性質の異なるデータにあたる必要がある。長谷川 (1993) ではまた接辞受身形の主語が無情物の場合には接辞受身形は自動詞と解すべき場合が多いと述べているが、もし 132 例全てを自動詞としてみるといったい韓国語の受身はどれをもって受身といえいいのかという疑問が生じる。ドラマのト書きに無情物が多いこともデータの性質によるもので場面や舞台の説明が主な内容であるためと考えられる。

【接辞受身形：有情物】

(16) 수옥이 는 보름 전에 그만 파도에 휩쓸려서,,
 suogi-neun boleum jeon-e pado-e hwibsseul-hi-eoseo,,
 スオク-人名 二週間前に 波-BY 浚-PASS-て
 スオクは二週間前に波に浚われて、

(ド、対、チレ)

【接辞受身形：無情物】

(17) 저마다 눈에 눈물이 그렇 맺힌다.
 jeomada nun-e nunmu-i geuleong maej-hi-nda.
 それぞれ 目に 涙-NOM うるんと 結-PASS-DEC.
 それぞれの目に涙がいっぱいになる。

(ド、ト、特④)

【接辞受身形：有情物】

(18) 주한 미군 차량에 한국인 여성이 치여 숨졌다.

juhan migun cyalyang-e hangugin yeoseon-i chi-hi-eo sumjy-eoss-da.

駐韓 米軍 車両-BY 韓国人 女性-NOM 跳-PASS 死-PST-DEC.

駐韓米軍の車両に韓国人女性が跳ねられ亡くなった。

(新, gye6月)

【接辞受身形：無情物】

(19) 아리랑은 -省略- 이와나미 문고가 선정한 세계명작 100 선에 뽑혔다.

alilang-eun iwanami mungo-ga seonjeonghan segyemyeongjag 100seon-

e ggop-hi-eoss-da.

アリラン (本の名前) -TOP 岩波文庫-NOM 選定した 世界名作 100 選-

BY 選-PASS-PST-DEC.

アリランは岩波文庫が選定した世界名作 100 選に選ばれた。

(新, gye4月)

以上の用例の(16)、(18)は有情物主語であるが、主語の意思性は感じられない。(17)の例は能動文が想定できない用例で、さらに *jida* が結合しても自然な文になる。

【*jida* 形：有情物】

(20) 우리가 보기에 두 사람 맺어지는 게 좋아보여요!

uliga bogi-e du salam maej-eo-ji-neun ge johgaboyeoyo.

私たちが 見るに 二人 結ぶ-*jida*-のが 良く見-DEC.

私たちが見るには二人結ばれるのが良さそうにみえます。

(ド、対、チレ)

【*jida* 形：有情物】

(21) 아이는 내일 고아원이나 임시 보호시설로 보내질 겁니다.

ai-neun naeil goawonina imsi bohosisello bonae-ji geobnida.

こども-TOP 明日 孤児院か 臨時 保護施設に 送-*jida*-でしょう。

こどもは明日孤児院か臨時保護施設に送られるでしょう。

(ド、対、特⑥)

長谷川(1993)で *jida* 形は無情物が受身主体にたつのが本来的な形で、有情物を受身主体とする場合は、その有情物(人)は精神や感情をもった人格というより、資格や立場などに抽象化されたもの、或いは感情や人格を無視し姿や肉体などを無情物として捉えられているとしたが、確かに新聞社説の用例をみると公務員、議長、などの肩書きなどで主語にたつものも多いが(20)のように感情をもった受身主語として捉えられる用例もある。

(21)についてはこどもを物と同様に無情物で判断するのであれば客観的な事実の描写であるといえるだろう。

【接辞+ jida 形：有情物】

(22) 마당 한쪽에 묶여진 유황오리, 짹짹 거린다.

madang hanjjog-e mugg-^[i]eo^[ji]-n yuhwangoli, ggoaeg ggoaeg geolinda.

庭 片っ方に 縛-PASS-接辞+jida-PST 硫黄アヒル ケッケと鳴く

庭の片隅に繋がれた硫黄アヒル、ケッケと鳴いている。

(ド、ト、特①)

【接辞+ jida 形：無情物】

(23) 목욕통에 물이 가득 담겨진다.

mogyogtong-e mul-i gadeug dam-^[gi]eo^[ji]-n-da.

湯船に水-NOM いっぱい 入-PASS-接辞+jida-PRS-DEC.

湯船にお湯がいっぱい入れられる。

(ド、ト、特①)

【接辞+ jida 形：無情物】

(24) 종종 한 나라의 국사는 자국의 영광과 승리를 빛내는 도구로 쓰여진다.

jongjong han nalaoui gugsaneun jagugeui yeonggwang-gwa seungli-leul

bichnaeneun dogu-lo sseu-^[i]eo^[ji]-n-da.

度々 一つ 国の 国史-TOP 自国の 栄光と勝利-ACC 輝かせる 道具-INS

使-PASS-接辞+jida-PRS-DEC.

度々一国の国史は自国の栄光と勝利を称える道具として使われる。

(新、gye4月)

6.3 jida のアスペクト性について

‘-아 있다(a issda、-ている)’ ‘-고 있다(go issda、-ている)’ との共起関係

韓国語で行為の結果持続を表す形式として動詞の語幹の母音の違いによって-아(a)/어(eo)/해(hae)の連用形語尾に存在詞の있다(issda、いる、ある)を後続させる ‘-아 있다(a issda、-ている)’ の形式と行為が進行または最中であることを表す形式として語幹に ‘-고 있다(go issda、-ている)’ を後続させる方法がある。この節では異なるデータの受身接辞形/jida 形/接辞+jida 形がどのようにこれらと共起するのかをみでみる。

接辞+jida 形が受身をあらわすということは6.1でみたが、もう一つ5章での先行研究で、jida にはアスペクト的な働きがあるとしているのでそれを検証するべく、本節では接辞受身形、jida 形、接辞+jida 形のアスペクト性についてみてみたい。

‘-아 있다(a issda、-ている)’ との共起

接辞受身形	用例数	jida 形	用例数	接辞+jida 形	用例数
ドラマ脚本 (71 例中)	21 例 (21 例全て ト書き)	ドラマ脚本 (82 例中)	16 例 (16 例全て ト書き)	ドラマ脚本 (49 例中)	9 例 (9 例全て ト書き)

新聞社説 (152 例中)	33 例	新聞社説 (135 例中)	6 例	新聞社説 (24 例中)	2 例
------------------	------	------------------	-----	-----------------	-----

[表 3-1]

‘-고 있다(go issda、-ている)’との共起

接辞受身形	用例数	jida 形	用例数	接辞+jida 形	用例数
ドラマ脚本 (71 例中)	0 例	ドラマ脚本 (82 例中)	0 例	ドラマ脚本 (49 例中)	0 例
新聞社説 (152 例中)	0 例	新聞社説 (135 例中)	4 例	新聞社説 (24 例中)	2 例

[表 3-2]

塚本・鄭 (1993) は、接辞受身形の受身文では ‘-아 있다(a issda、-ている)’ を用いて行為の結果持続を表すことは非常に限られていて通常できないと述べている。彼らの対象とした用例¹⁷では受身接辞形と ‘-고 있다(go issda、-ている)’ の例ばかり見つかるとした。それから jida 形は ‘-아 있다(a issda、-ている)’、‘-고 있다(go issda、-ている)’ の両方が許されると述べている。しかし、今回のデータをみると接辞受身形と ‘-아 있다(a issda、-ている)’ との共起はドラマト書きで 21 例にもなるのに対し、‘-고 있다(go issda、-ている)’ との共起はゼロである。3つの形式において ‘-고 있다(go issda、-ている)’ との共起は今回の用例データからは少なかった。しかもドラマ脚本では3つの形式との共起がゼロである。それから、長谷川 (1993) で接辞+jida 形の jida は状態をあらわすとしたが、jida が状態をあらわすとすれば接辞+jida 形と ‘-아 있다(a issda、-ている)’ との共起の 9 例は多いような気がする。これは接辞受身形の 21 例の約半分にあたる数である。ここで用例の (2 3) をもう一度あげてみたいと思う。

(2 3) 목욕통에 물이 가득 담겨진다.

mogyogtong-e mul-i gadeug dam-gi-eoji-n-da.

湯船に水-NOM いっぱい 入-PASS-接辞+jida-PRS-DEC.

湯船にお湯がいっぱい入れられる。

(ド、ト、特①)

以上の (2 3) は ‘入れる’ という動詞を用いているが、この用例を ‘入れられている’ という意味にするためには補助動詞の ‘아 있다(a issda、-ている)’ が必要である。結果状態をあらわす文においてアスペクトがどの形式によって担われているかは、当然動詞の性質と関係があると思われるので、今後考察の必要がある。

7. まとめ

受身の体系において制限の少ない英語や日本語と違って韓国語の受動形式としては一番

¹⁷塚本・鄭 (1993) が対象とした用例は新聞や小説で特に変わった文献を対象としているのではない。

典型的だといわれている接辞受身形においても接辞をとる動詞の数が少なく、その典型的だといわれている形式までも自動詞との混乱などから果たして韓国語文法において受身という範疇があるといえるだろうかという疑問までもった。

こういった受身の接辞が満たすことのない空白を補助動詞が補っているが、受身接辞より結合する他動詞の数は補助動詞 *jida* の方が多いということは今回のデータからも実証された。しかし、この補助動詞 *jida* は他動詞のみならず、形容詞、自動詞にも結合する。また、他動詞に *jida* が結合する *jida* 形と、接辞+*jida* 形では接辞受身形との重複使用において接辞+*jida* 形と接辞形の違いが感じられないものもあれば、違いが感じられるものもあり、結合する動詞の属性動詞の意味や事態の性質との関連を調べる必要がある。

今回ドラマ脚本の対話、ト書き、新聞社説の 3 つの文体で用例分析を行なったところ、まず、文体差において 3 つの形式全てが文語体に圧倒的に多くあらわれた。対話が一番多くあらわれたのは *jida* 形の 15 例で接辞+*jida* 形はわずか 1 例だった。ここから韓国語の受身形式は対話にはあらわれにくいといえる。次に、主語については接辞受身形、*jida* 形、接辞+*jida* 形ともに無情物がよく用いられた。一般に韓国語の受身は主に有情物を主語として用いられるといわれているが、今回対象としたデータの性質からこのような結果が出たと思われる。有情物と無情物の意味上の大差は見られず、ドラマ脚本の対話よりト書きに無情物が多く出たことが今回のデータの特徴であるといえる。最後に、先行研究でもいわれているように *jida* 形と接辞+*jida* 形に起動や状態をあらわすアスペクト的な性質があるかどうかみるために ‘아 있다(a issda、－ている)’、‘－고 있다(go issda、－ている)’ との共起をみた。‘아 있다(a issda、－ている)’ との共起では接辞受身形に比べ *jida* 形と接辞+*jida* 形の割合が低く、(23) の例のように ‘아 있다(a issda、－ている)’ を結合させなければ結果状態が表せないような用例もある。*jida* が 受身接辞と共起する場合、すべての *jida* 形と接辞+*jida* 形において *jida* がアスペクト性をもつわけではなく、接辞受身形と同じく受身をあらわす場合もあるため動詞の性質との関連を考慮せずある形式一つのみを受身形式であるというのは韓国語の受身には無理があると思う。

8. これからの課題

より多くの用例にあたるとともに、動詞の性質や事態の性質との関連を見て行かねばならない。今回は文体の違いで話しことばの用例が多くあらわれなかったが、今後口語体の用例の収集にも臨みたい。今回用例データとしてドラマの脚本を用いたのだが、文語体とも口語体とも解釈できるト書きという表現についてより多くのデータ分析を行いたい。

【参考文献】

최현배(Choihyenbae,1937) 『우리말본』 정음사

『ウリマル本』 チョウウム社

고영근(Goyeonggeun,1974) 「국어접미사의 연구」 백합출판사

- 「国語接尾辞の研究」 百合出版社
- 성광수(Seonggwansu,1976) 「국어간접피동에 대하여」 『문법연구』 3
「国語間接被動について」 『文法研究』 3
- 송병학(Songbyeonghag,1979) 「한국어의 수동태」 『언어』 4-2
「韓国語の受動態」 『言語』 4-2
- 서정수(Seojeongsu,1996) 『국어문법』 한양대학교출판 pp1050-1091
『国語文法』 漢陽大学出版
- 우인혜(Uinhye,1997) 『우리말 피동연구』 pp11-100 한국문화사
『ウリマル被動研究』 韓国文化社
- 김홍수(Gimhuengsu,1998) 「피동과사동」 『이익섭 선생회갑기념 논총』 pp621-664
「被動と使動」 『이익섭 Iigseob 先生還曆記念論集』 太学社
- 이상익(Isangig,1999) 『국어문법론강의』 pp293-314
『国語文法論講義』 斗山東亜
- 고광주(Gogwangju,2001) 『국어의 능격성 연구』 pp223-236 月印
『国語の能格性研究』
- 塚本秀樹/鄭相哲 (1993) 「韓国語における固有語動詞の受身文について」 月刊『言語』 11
「이」形「지다」形の使い分けを中心に pp70-77
大修館書店
- 長谷川由紀子 (1993) 「朝鮮語の受身表現一固有語動詞の受身表現を中心に」 『權域』 2
pp1-31
- 許明子 (2004) 『日本語と韓国語の受身文の対照研究』 ひつじ書房
- 龜井 孝 / 千野 栄一 / 河野 六郎(1996) 『言語学大辞典』 第6巻 述語編 pp865 三省堂

[形態素单位略] NOM (主格) TOP (話題) ACC (対格) BY (受身文で意味上の動作主) INS (具各) PASS (受身形態) PST (過去時制) PRS (現在時制) DEC (平叙文語尾)

[用例－新聞]

- ・한겨레신문 (hangyeole 新聞) 2005年1月～3月分の社説(<http://www.hani.co.kr/>)
- ・동아일보 (donga 日報) 2005年1月～5月分の社説(<http://www.chosun.com/>)
- ・경향신문 (gyeonghyang 新聞) 2005年1月～6月分の社説(<http://www.donga.com/>)

[用例－ドラマ] (<http://www.kbs.co.kr/>)

- ・짚레꽃(2004) - チレッコ (野茨の花)
- ・kbs 특집드라마(2003) - kbs 特集ドラマ (以下7編)
 - ① 카кте키 1 ②카кте키 2 ③婚需 ④タルジュン氏のシンデレラ
 - ⑤ 千年の夢 ⑥手袋 ⑦チョンソン데의月